

# MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第28号 2012年3月

## もくじ

巻頭言・「地域のデザインカ」	中西 由美子
第2回バス見学会 報告	宇野 哲夫
第2回環境カウンセラー(EC)全国交流会に参加して	藤井 健史
新会員紹介	川口 尚文・昆野 俊男



伝統の「相馬野馬追い」  
展開合図の法螺貝

## 巻頭言・「地域のデザインカ」

中西 由美子

先日NHKで、地域の生産物に魅力的なパッケージのデザインを手がけているプロのデザイナーのことが取り上げられていた。デザイナー一つで、売れ行きがアップする様子が放映されていた。依頼者とともに現場を歩き、依頼者の思いを聴き取り、ただきれいだけではなく、心のこもったデザインを考案する。そして、きちんとその成果を出す。それがプロの仕事なのだと改めて感心した。

それで思い出したが、今関わっている仕事である。年間何百万の観光客や登山者が訪れる、首都圏の人気山。この山をもっと魅力的にするために、ここで売っているおみやげやお弁当などにもしゃれたデザインの包装紙で飾るなどして、新しいイメージづくりを企て、ブランド力をつけてはどうか、とある先生が薦める。やはりイメージというのは大事である。

さらに、ある自然系のNPOでは、会員数の低迷を脱し、もっと若い人たちの会員を増やそうと、パンフレット改訂を機に、若い人に手にとってもらえるような明るいイメージのデザインを考案中であり、自分もそれを手伝っている。

「見た目」は、大事である。

まずは手にとってもらうこと。読んでもらえること。関心を持ってもらうこと。そのためにはどうすればよいか。それは「ターゲット」、つまり見せたい相手を明確にし、その相手の心に響く何かを見せることである。そしてそのためには、「ターゲット」の立場に立って何を求めているかを見定めることである。これはマーケティングにも共通する必須条件である。市民団体が活動の仲間を増やしたい時、自治体が市民に対して呼びかけをする場合、そして、私たち環境カウンセラーが企業や市民に呼びかけをする時にも、そのことが当てはまると思う。

地域のデザインには2つあり、第1は活動や取り組みの大枠のデザイン、いわばコンセプトである。「この活動は、何を目的に、どんなことをしているのか。どういう仕組みなのか」というアウトラインである。第2はそういったコンセプトを端的に示す、見た目のデザイン。そしてそれは、第1のデザインによって魂を吹き込まれる。そして、私たちが環境カウンセラーとして、依頼者と共にやることは、冒頭のプロのデザイナーのように、思いを共有し、様々な議論を経ながら2つのデザインを作り上げていくことである。

## 第2回バス見学会 報告

宇野 哲夫



電中研のバイオマス発電実験プラント

第2回バス見学会が9月13日に行われ、三浦半島にある電力中央研究所と地球環境戦略研究機関(IGES)を総勢25人で見学してきた。

### 1. 財団法人 電力中央研究所 (電中研)

当研究所の「石炭燃焼特性実証試験装置」と「バイオマス/廃棄物 炭化・ガス化 発電関連設備」を2グループに分かれて見学した。

#### 1.1 石炭燃焼特性実証試験装置

日本にはかなり高度な燃焼技術があることはよく知られているが、その実態の解説があった。

内容は「石炭ガス化複合発電(IGCC)」と「低品位資源の有効利用」だが何れも電中研自慢の技術でありホームページに研究報告書として掲載されているので、その解説はここでは省略する。

#### 1.2 バイオマス発電

・ バイオマス発電の最大のネックは熱原料必要量を定常的に入手することだ。この試験装置の必要量は日量5トンだが、それを常時入手することでずら厳しい。

・ 電中研にはIGCC(上述)という自慢の技術があるので、その発想で全てのバイオマス原料を一旦炭化した後ガス化し、ガスタービンと蒸気タービンの2段階で発電している。但し、バイオマス発電はバイオマス原料それぞれの特性に応じて発電するのが正道だ。

### 2. 財団法人 地球環境戦略研究機関(IGES)

この建物は“環境を発想の原点とした建築”として様々な工夫が凝らしてある。それが自慢のようで、見学は先ずその説明から始まった。その解説パンフレットができていたのでここでは省略する。

当法人の事業は理解し難いが、一応下記の様に表現されている。

「アジア太平洋地域における環境ベースの開発を実現する際の政策を研究する。」

IGES事業の特性を知るため、仕事の環境や労働条件を質問したところ、下記回答を得た。

- ・ 採用する人材は即戦力になる人で、職歴で判断し、年齢制限は無い。また人材育成はしていない。
- ・ 研究期間は1テーマ3年で、その成果を最高意思決定機関である理事会(理事10人)が、1テーマを2時間ぐらい掛けて検討し判断する。外国人理事(5人)からの質疑は特に厳しく、成果が認められなければ、契約解除ということもあるらしい。資金調達は主に環境省からの拠出金だが、環境省から外部研究組織への委託業務の一部がIGESに廻ってくることも少なくない。

見学終了後全員で城ヶ島へ渡り、最後の夏の日を楽しんだ。帰路の途中で日が暮れ、三鷹駅に着いた時には7時半をまわっていた。



IGESの見学風景

## 第2回環境カウンセラー(EC)全国交流会に参加して

藤井 健史

昨年10月27日、28日に福島県磐梯熱海温泉を会場として開催されたEC全国交流会に参加しました。

会合は福島EC協議会の全面的な協力の下に進められ、北海道から岐阜までの地域から52名、MECCからは寺木、富川、藤井の3名が参加しました。

初日は全体講演と分科会があり、講演では福島EC協会の長沢会長より南相馬市の津波被害と原発事故の避難状況が映像を交えて報告されました。分科会は第1分科会「原発事故後のエネルギー」、第2分科会「放射能汚染と復興への対応」、第3分科会「被災地の生態系回復と環境教育」で、話題提供と話し合いがありました。

私は放射性物質の伝播や放射線の影響について関心があり、第2分科会に参加しました。郡山市環境保全センター長、菊地さんが、現地での調査事実を中心に放射性物質伝播の実情とそれに対する行政の対応について非常に印象深い報告をされました。放射能汚染の状況は地域の行政体の他、国の機関等で相当に調査されデータも蓄積されて、実態がかなり把握されてきています。そのような状況において住民、農作物へどのように対応してゆくかが極めて大切なこととなります。放射線に対する科学的な知識から離れた風評の影響の様子も報告されました。行政の担当者としての苦衷がにじみ出るようなお話しでした。

2日目はバスに乗って被災地の実情を見て廻りました。二本松ICから飯館村、南相馬市役所を経て海岸近くの研修会場の大甕生涯学習センター行き、その後被災地を通してJR福島駅まで移動するというコースでした。前半はちょうど11月7日に環境省が行った詳細モニタリングの経路と同じだったと思います。

私は放射線計を預かり移動中の放射線量の推移を確認しました。



打ち上げられた船と被災地

二本松ICでは $0.5(\mu\text{ Sv/hr})$ であった放射線量が飯館村では $1.5\sim 2.5$ 、南相馬市内は $0.25$ 、海岸近くでは $0.15$ 程度で地域により明確な差(ホットスポット)があることが認識できました。警戒区域との境界では警官が厳重な警備をしていました。

研修会場では相馬野馬追いの合図のほら貝の歓迎を受け、その後地元ECの方々及び震災被災者や、その時活動された方々の体験談を聞き、意見交換で交流を深めました。このような災害に際して私達ECの活動は如何にあるべきかを深く考えさせられました。

地震・津波の被災状況は、震災後7ヶ月以上を経過して、殆どが丈の高い雑草に覆われた平地が一面に広がっている状態で、被災した当時の惨状は知るよすががありません。しかし、近くの前町火力発電所は外見上の形態は保っているものの運転再開には3年以上かかるといわれるほどの被害を受けていました。

今回の交流会は被災地の実情を見聞き、多くの現地及びECの方々との意見を交換・交流でき、印象深く、実りあるものでした。



沈下した地盤の先の瓦礫の山

## 新会員紹介

### <川口尚文さん>



1942年生まれで疎開を経験しているロートルです。昨年埼玉から武蔵小金井市へ転居してきました。三菱電機を定年退職しISO審査員を続けていますが今年第2の定年退職の予定です。

環境には、1970年代の公害問題から現在の地球環境問題まで40年超えで一貫して係わっており、いくつかの環境関連資格の他、環境行政への関与のため行政書士資格も持っています。

環境問題は、ますます複雑系となっていますが、今後は地域に軸足を置き環境法概念を整理したいと思っています。

本会の皆様方のご指導ご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

## 新会員紹介

### <昆野 俊男さん>

武蔵野市在住の昆野俊男です。私は音響・映像会社で約30年、電子部品の開発を担当していました。私の環境との関わりは研究開発部門にいた時に、汚水未処理問題が発生し、それを解決したことから始まり、その後、環境管理責任者として部門のISO14001認証取得と維持を図りました。会社での環境に関する取組は約11年です。退職(2000年)後、機構部品会社のISO14001認証取得の支援及び自動車販売店舗の廃棄物管理等に関する環境の確認・指導等を行いました。その間に私の役割は中小企業の環境への取

組を支援することであると  
考え、2010年からEA21審査人となり、関係企業グリーン化プログラムでの数社のコンサル、数社の審査を経験しました。昨年夏、松島理事のご紹介でMECCに入会させていただきました。今後、皆様のご指導をいただきながら、カウンセラー活動を勉強させていただきます。どうぞよろしくお願い致します。



### 南相馬にて:被災者との懇談

津波に追われて逃れた方、保育園長、デイサービスの職員他の方々から涙ぐみながら震災時の様子をお聞きしました。田圃の水を三度も入替て再生を図っているお話や、被災時の炊き出しと同じお握りのもてなしも受けました。(藤井)

発行者 : NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会 (MECC) 事務局  
180-0003 武蔵野市吉祥寺南町3-31-16 糸井守  
TEL : 0422-45-0352 FAX : 0422-45-0353  
ホームページ : <http://www.mecc.or.jp/>  
編集者 : 中西由美子